

# 農業共済事業特別会計

## 1 業務実績

各共済種目の業務量の前年度比較は、第1表の通りである。

### (1) 農作物共済

水稲共済引受は、戸数 2,465 戸（対前年度 188 戸増）で、面積 100,838 a（対前年度 3,616 a 増）、引受収量 3,389,475kg（対前年度 154,591kg 増）、共済金額 677,895,000 円（対前年度 33,779,480 円減）となっている。

被害は、被害戸数 152 戸（対前年度 227 戸減）で、被害面積 2,676 a（対前年度 5,317 a 減）、共済減収量 36,530kg（対前年度 84,058kg 減）、共済金支払額 7,306,000 円（対前年度 19,223,360 円減）となっている。

麦共済の引受は、県農作物改良協会の割当による種子用麦のみの栽培であり、戸数 15 戸（対前年度 5 戸減）で、引受面積 2,634 a（対前年度 117 a 増）、引受収量 49,661kg（対前年度 389kg 減）、共済金額 9,321,481 円（対前年度 268,843 円減）となっている。

被害は、被害面積 315 a（対前年度 186 a 増）で、共済減収量 1,690kg（対前年度 1,347kg 増）、共済金支払額 354,900 円（対前年度 282,184 円増）となっている。これは、冬季の雪害等によるものである。

また、損害防止事業として、市が実施する野生動物防護柵設置事業補助金にかかる財源として、水稲共済損害防止事業助成金交付要綱に基づく連合会負担金と合わせて 1,803,000 円助成している。

第1表 業務量の比較

### 農作物共済

（単位：戸・a・kg・円）

共済目的	年産	引 受 状 況					被 害 状 況			
		戸 数	面 積	引 受 収 量	平均単収	共 済 金 額	戸 数	面 積	共 済 減 収 量	共 済 金 支 払 額
水 稲	22	2,465	100,838	3,389,475	480	677,895,000	152	2,676	36,530	7,306,000
	21	2,277	97,222	3,234,884	475	711,674,480	379	7,993	120,588	26,529,360
	増減	188	3,616	154,591	5	△ 33,779,480	△ 227	△ 5,317	△ 84,058	△ 19,223,360
	率	8.3%	3.7%	4.8%	1.1%	-4.7%	-59.9%	-66.5%	-69.7%	-72.5%
麦	23	15	2,634	49,661	269	9,321,481				
	22	20	2,517	50,050	268	9,590,324	2	315	1,690	354,900
	21	18	2,512	47,179	268	8,878,959	3	129	343	72,716
	増減	△ 5	117	△ 389	1	△ 268,843	△ 1	186	1,347	282,184
	率	-25.0%	4.6%	-0.8%	0.4%	-2.8%	-33.3%	144.2%	392.7%	388.1%

麦については共済の引受期間が2年度にわたるため、22年度の引受状況に関する数値は23年産麦の数値で、22年度の被害状況の数値は21年度の引受に対するものである。

## (2) 家畜共済

乳牛の引受は、農家戸数が2戸(対前年度と変わらず)で、頭数は128頭(対前年度5頭増)、1頭当たり共済金額91,836円(対前年度484円減)となっている。

被害は、病傷事故が60件(対前年度14件増)で、共済金支払額が980,020円(対前年度377,730円増)、死廃事故が18件(対前年度12件増)で、共済金支払額が940,340円(対前年度589,149円増)となっている。これは、昨夏の猛暑等によるものである。

肉用牛(肥育)の引受は、農家戸数は6戸(前年度1戸減)、頭数が955頭(対前年度103頭減)、1頭当たり共済金額が155,288円(対前年度9,277円増)となっている。

被害は、病傷事故が165件(対前年度9件減)で、共済金支払額が1,849,160円(対前年度520,090円減)。死廃事故が18件(対前年度17件減)で、共済金支払額が2,580,261円(対前年度2,726,608円減)となっている。

肉用牛(その他)の引受は、農家戸数は18戸(対前年度6戸減)、頭数が486頭(対前年度69頭増)、1頭当たり共済金額が146,379円(対前年度5,450円増)となっている。

被害は、病傷事故が202件(対前年度56件増)で、共済金支払額が2,234,110円(対前年度739,670円増)。死廃事故が18件(対前年度4件増)で、共済金支払額が2,095,207円(対前年度613,445円増)となっている。

一般馬の引受は、農家戸数1戸(前年度と変わらず)で、頭数が14頭(対前年度1頭減)、1頭当たり共済金額が100,000円(対前年度と変わらず)となっている。

被害は、死亡事故はなく、病傷事故が1件で共済金支払額が4,850円(対前年度38,810円減)となっている。

また、一般損害防止事業として予防衛生薬剤の配布及び口蹄疫による宍粟死廃・病傷事故予防に395,000円、特定損害防止事業として県連合会へ委託し疾病等予防活動に571,860円を支出している。

## 第1表 業務量の比較

### 家畜共済

(単位 : 戸・頭・円・件)

共済目的	年度	引 受 状 況				被 害 状 況			
		戸 数	頭 数	共 済 金 額	1 頭 当 り 共 済 金 額	病 傷 事 故		死 廃 事 故	
						件 数	共 済 金 支 払 額	件 数	共 済 金 支 払 額
乳 牛	22	2	128	11,755,000	91,836	60	980,020	18	940,340
	21	2	123	11,355,400	92,320	46	602,290	6	351,191
	増減	0	5	399,600	△ 484	14	377,730	12	589,149
	率	0.0%	4.1%	3.5%	-0.5%	30.4%	62.7%	200.0%	167.8%
肉(肥 用 育) 牛	22	6	955	148,300,000	155,288	165	1,849,160	18	2,580,261
	21	7	1,058	154,480,000	146,011	174	2,369,250	35	5,306,869
	増減	△ 1	△ 103	△ 6,180,000	9,277	△ 9	△ 520,090	△ 17	△ 2,726,608
	率	-14.3%	-9.7%	-4.0%	6.4%	-5.2%	-22.0%	-48.6%	-51.4%
肉(そ の 他) 牛	22	18	486	71,140,200	146,379	202	2,234,110	18	2,095,207
	21	24	417	58,767,200	140,929	146	1,494,440	14	1,481,762
	増減	△ 6	69	12,373,000	5,450	56	739,670	4	613,445
	率	-25.0%	16.5%	21.1%	3.9%	38.4%	49.5%	28.6%	41.4%
一 般 馬	22	1	14	1,400,000	100,000	1	4,850	0	0
	21	1	15	1,500,000	100,000	3	43,660	0	0
	増減	0	△ 1	△ 100,000	0	△ 2	△ 38,810	0	0
	率	0.0%	-6.7%	-6.7%	0.0%	-66.7%	-88.9%	-	-

### (3) 畑作物共済

引受は、戸数 186 戸 (対前年度 16 戸減) で、引受面積 6,604 a (対前年度 384 a減)、引受収量 42,213kg (対前年度 2,647kg 減)、共済金額 65,600,036 円 (対前年度 3,891,079 円減) となっている。

被害は、被害戸数 64 戸 (対前年度 2 戸減) で、被害面積 1,885a (対前年度 106a減)、共済減収量 5,206kg (対前年度 143kg 減)、共済金支払額 8,204,656 円 (対前年度 367,208 円減) となっている。

## 第1表 業務量の比較

### 畑作物共済

(単位 : 戸・筆・a・kg・円)

共済目的	年度	引 受 状 況				被 害 状 況				
		戸 数	面 積	引 受 収 量	平 均 単 収	共 済 金 額	戸 数	面 積	共 済 減 収 量	共 済 金 支 払 額
大 豆	22	186	6,604	42,213	86	65,600,036	64	1,885	5,206	8,204,656
	21	202	6,988	44,860	87	69,491,115	66	1,991	5,349	8,571,864
	増減	△ 16	△ 384	△ 2,647	△ 1	△ 3,891,079	△ 2	△ 106	△ 143	△ 367,208
	率	-7.9%	-5.5%	-5.9%	-1.1%	-5.6%	-3.0%	-5.3%	-2.7%	-4.3%

(4) 園芸施設共済

引受は、戸数 24 戸（対前年度 1 戸減）で、引受棟数 67 棟（対前年度 2 棟増）、共済金額は 21,488,000 円（対前年度 1,320,000 円減）となっている。

被害は、被害戸数 9 戸（対前年度 3 戸増）で、棟数 10 棟（前年度 4 棟増）、共済金支払額 796,671 円（対前年度 640,083 円増）となっている。

第1表 業務量の比較

園芸施設共済

(単位 : 戸・棟・㎡・円)

共済目的	年度	引 受 状 況					被 害 状 況			
		戸 数	棟 数	面 積	共 済 価 格	共 済 金 額	戸 数	棟 数	損 害 額	共 済 金 支 払 額
プラスチックハウス 内作無し	22	24	67	15,161	26,900,000	21,488,000	9	10	1,003,336	796,671
	21	25	65	14,550	28,552,000	22,808,000	6	6	196,376	156,588
	増減	△ 1	2	611	△ 1,652,000	△ 1,320,000	3	4	806,960	640,083
	率	-4.0%	3.1%	4.2%	-5.8%	△ 0.1	50.0%	66.7%	410.9%	408.8%

2 予算の執行状況

(1) 収益的収支

収益的収支の執行状況は、第2表の通りである。

収益的収入の合計は、予算額 92,405,000 円に対して、決算額は 80,106,121 円で、予算額に対して△12,298,879 円であり、その執行率は 86.7%となっている。

収益的支出の合計は、予算額 92,405,000 円に対して、決算額は 79,487,711 円で、不用額は 12,917,289 円であり、執行率は 86.0%となっている。

① 収益的収入

農作物共済勘定では、予算額 11,841,000 円に対して、決算額は 10,088,734 円(執行率 85.2%)で、予算額に対して△1,752,266 円である。

家畜共済勘定では、予算額 18,017,000 円に対して、決算額は 16,602,783 円(執行率 92.2%)で、予算額に対して△1,414,217 円である。

畑作物共済勘定では、予算額 17,464,000 円に対して、決算額は 12,610,426 円(執行率 72.2%)で、予算額に対して△4,853,574 円である。

園芸施設共済勘定では、予算額 3,329,000 円に対して、決算額は 1,074,277 円(執行率 32.3%)で、予算額に対して△2,254,723 円である。

業務勘定では、予算額 41,754,000 円に対して、決算額は 39,729,901 円(執行率 95.2%)で、予算額に対して△2,024,099 円である。

## ② 収益的支出

農作物共済勘定では、予算額 11,841,000 円に対して、決算額は 9,998,182 円(執行率 84.4%)で、1,842,818 円の不用額である。

家畜共済勘定では、予算額 18,017,000 円に対して、決算額は 16,415,826 円(執行率 91.1%)で 1,601,174 円の不用額である。

畑作物共済勘定では、予算額 17,464,000 円に対して、決算額は 12,269,525 円(執行率 70.3%)で、5,194,475 円の不用額である。

園芸施設共済勘定では、予算額 3,329,000 円に対して、決算額は 1,074,277 円(執行率 32.3%)で、2,254,723 円の不用額である。

業務勘定では、予算額 41,754,000 円に対して、決算額は 39,729,901 円(執行率 95.2%)で、2,024,099 円の不用額である。

### 第2表 収益的収支の執行状況

(単位：円・%)

区 分	収 入				支 出				当 該 年 度 純 利 益
	予 算 額	決 算 額	増 減	執行率	予 算 額	決 算 額	不 用 額	執行率	
農作物共済勘定	11,841,000	10,088,734	△ 1,752,266	85.2%	11,841,000	9,998,182	1,842,818	84.4%	90,552
家畜共済勘定	18,017,000	16,602,783	△ 1,414,217	92.2%	18,017,000	16,415,826	1,601,174	91.1%	186,957
畑作物共済勘定	17,464,000	12,610,426	△ 4,853,574	72.2%	17,464,000	12,269,525	5,194,475	70.3%	340,901
園芸施設共済勘定	3,329,000	1,074,277	△ 2,254,723	32.3%	3,329,000	1,074,277	2,254,723	32.3%	0
業務勘定	41,754,000	39,729,901	△ 2,024,099	95.2%	41,754,000	39,729,901	2,024,099	95.2%	0
合 計	92,405,000	80,106,121	△ 12,298,879	86.7%	92,405,000	79,487,711	12,917,289	86.0%	618,410

## 3 経営成績

### (1) 損益状況

損益状況の前年度比較は、第3表の通りである。

全体で、収益 80,106,121 円に対して費用 79,487,711 円で、差引 618,410 円の当年度純利益を計上している。

前年度と比べると、収益は 22,580,721 円、費用も 22,794,463 円減少している。

勘定科目ごとに見ると、農作物共済勘定は、収益 10,088,734 円に対して、費用は 9,998,182 円で、90,552 円の当年度純利益となっている。

家畜共済勘定は、収益 16,602,783 円に対して、費用は 16,415,826 円で、186,957 円の当年度純利益となっている。

畑作物共済勘定は、収益 12,610,426 円に対して、費用は 12,269,525 円で、340,901 円の当年度純利益となっている。

園芸施設共済勘定は、収益・費用とも 1,074,277 円で、当該年度純利益はない。

業務勘定は、収益・費用とも 39,729,901 円で、当該年度純利益はない。

## (2) 収 益

### ① 事業収益

事業収益は 72,476,248 円で、前年度に比べ 22,762,293 円 (△23.9%) 減少している。主に農作物共済勘定の保険金 11,822,173 円 (△86.1%)、畑作物共済勘定の保険金 1,133,723 円 (△15.9%)、業務勘定の受取補助金 1,601,005 円 (△6.2%) が減少したことによる。

### ② 事業外収益

事業外収益は 7,629,873 円で、前年度に比べ 181,572 円 (2.4%) 増額している。本年度は、建物農機具推進協議会の受取寄付金が、前年度より 300,000 円 (4.2%) 増となっている。

## (3) 費 用

### ① 事業費用

事業費用は 79,485,261 円で、前年度に比べ 22,650,468 円 (22.2%) 減少している。これは、平成 22 年は、夏の猛暑及び冬季の雪害があったものの平成 21 年度のような台風等の被害がなかったためである。

### ② 事業外費用

事業外費用は、2,450 円 (△143,815 円) で固定化債権回収不能損 (不納欠損) である。

第3表 損益状況の比較（別表のとおり）

## 4 財政状況

貸借対照表の前年度比較は、第4表の通りである。

### (1) 資産

資産総額は131,501,580円で、前年度末に比べ1,929,980円(△1.4%)減少している。

#### ① 流動資産

流動資産は130,185,343円で、前年度末に比べ1,571,083円(△1.2%)減少している。主に業務勘定において現金預金が13,727,428円(33.5%)増加したが、各共済勘定から業務勘定への一時貸付金が1,307,833円(△2.1%)減少したことと、未収金が13,999,038円(△51.9%)減少したことによる。

#### ② 固定資産

固定資産は1,316,237円で、前年度末に比べ358,897円(21.4%)減少している。

有形固定資産(車両及び器具)の減価償却費である。

### (2) 負債

負債は69,858,968円で、前年度末に比べ441,731円(△0.7%)減少している。主に業務勘定において、一時借入金が1,307,833円(△13.4%)減少し、未払い金が848,913円(53.9%)増加したことによる。

固定負債は全て業務引当金4,353,168円で、前年度末と同額である。

### (3) 資本

資本は61,642,612円で、前年度末に比べ1,488,249円(△2.4%)減少している。

剰余金は61,024,202円で、前年度末に比べ1,701,991円(△2.7%)減少している。内訳は、法定積立金が23,412,168円で、前年度末に比べ43,943円(0.2%)増加し、特別積立金が37,612,034円で、前年度末に比べ1,745,934円(△4.4%)減少している。

当該年度末処分剰余金は、618,410円となり、213,742円(52.8%)増加している。

第4表 貸借対照表の比較（別表のとおり）

## 5 まとめ

決算の概要は前述の通りである。

農業者の高齢化や耕作放棄地の増加など地域農業の構造変化が続く中、農家の経営は農作物価格の低迷と生産資材価格の高騰等により依然として厳しい状況に置かれている。後継者不足等による生産資源の減少に伴い、本市の農業城塞事業規模は年々縮小傾向にある。共済金額は 1,006,900 千円で前年度（1,039,667 千円）と比較し 3.2%（32,767 千円）減少していて、水稻の単位当りの共済金額が下がったことが主な要因である。

一方被害の発生状況では、共済金支払額は、前年度のような台風被害はなかったものの夏の猛暑や冬季の雪害や激寒により水稻で 7,036 千円（対前年度比△26,529 千円・△72.5%減）、麦で 355 千円（前年度対比 282 千円・388.1%増）、大豆で 8,204 千円（対前年度比△367 千円・△4.3%減）となっている。また、家畜では死傷事故で 5,616 千円（年度比△1,523 千円、△21.3%減）となり、病傷事故では 5,068 千円・12.4%増）となった。施設においては、冬季の雪害で 797 千円（対前年度比 640 千円・408.8%増）となっている。

損害防止事業については、水稻及び家畜について実施し共済事故の低減に努められているが、近年は気象に左右されることが多いことから、さらに関係機関との連携を図り、病虫害発生状況の情報提供等により被害の未然防止の啓発に一層努められたい。

経営状況については、前年度と比べ純利益が 618 千円（対前年度比 214 千円、52.8%増）となっている。勘定別にみると、当該年度純利益は農作物共済勘定で 90 千円、家畜共済勘定で 187 千円、畑作物共済勘定で 341 千円、園芸施設共済勘定と業務勘定では純利益はない。これにより、法定積立金と特別積立金は、全体で 1,701 千円の減となっている。

今後とも損害防止事業の推進等により健全な財政運営を図られるとともに、任意加入の推進を図り農業災害補償法の趣旨に添った加入者の利便性を高める損害補填の充実に努められたい。